

交尾相手の 選択

人間と同じように、パートナー選択は蝶の人生の中でも最も重要な決断の一つです。相性はいい?子作りに積極的?そして一番大切なのは、彼らは果たして同種であるかということ!蝶はこれらの判断を異なるファクターに基づいて行います:外見はどうか?どう匂うか?私のお近所さんかしら?交尾相手を選ぶ複雑なプロセスは自然界における最も驚くべき特性や習性を生み出すことに繋がりました。



交配 *Heliconius erato*

交尾相手の認識。 ドクチョウのように幾つかの種は、持ち前の明るい色を使って自分は美味しくないかと天敵を警告し、交尾相手を惹きつけます。例えば、前翅に白帯があるオスは同じ色パターンのメスを好みます。そして前翅に赤帯があるオスは同じ赤帯があるメスを好みます。



Prepona laertes (ルリオビタテハ)のオスは発香リン(性標)を使ってフェロモンを蓄え、放ちます。

誘引する匂い。 蝶と蛾はしばしばフェロモンと呼ばれる特別な香水を使い潜在的な交尾相手を認識します。蛾では、この香水の匂いが数百メートル離れたところからメスを引き寄せます。色に加えて、多くの蝶は正しいパートナーを選ぶために匂いを使いますが、もっと短い距離間でのことが普通です。

蛹での交尾。 未交尾のメスは珍しいので、オスは交尾をするためにたびたび争わなければなりません。この交尾のための競争はとても激しくなることがあります。ドクチョウの種の中には、メスが蛹から出てくるや交尾するオスもいます!



Heliconius hecale 蛹

婚姻ギフト。 多くの動物で、父親は子にあまり多くのことをしません。メスの大きくて栄養価の詰まった卵に比べて、精細胞はDNAのパッケージに過ぎません。しかしながら、蝶では少し事情が違います。DNAに加えて、オスの精子は精包という大きな栄養価を含んだ包みと共に届けられます。これはメスに対する「婚姻ギフト」として働きます。

抗媚薬。 いくつかの種では交尾中にオスがメスに香水の贈り物を提供します。例えば、ドクチョウのオスはメスに人間にとってチャーハンのような匂いをメスに残します。他の普通の香水と違い、これはメスを非魅力的にします!この匂いは抗媚薬として働き、他のオスが先を越すのを抑止します。人間にとってさえこの匂いはとても強く、ドクチョウのメスが交尾をしたかどうかを知るのに匂いを嗅ぐだけで知ることが出来ます。



交尾済みのメスはこの抗媚薬香水から利益を得ることがあります。 それはもし他のオスによりしつこく悩まされることが少なくなるなら、採餌や産卵といった大切な任務を遂行することが可能になるからです。他の蝶ではメスはオスに似ていることがあります。おそらくオスによるいらぬハラハラメントを抑制するためでしょう。